

<「知るっば！久留米」 令和3年6月3日（木） 12：30～放送分>

## 筑後川と防災 ～第1回～ 「くるめウス」

<ゲスト：筑後川防災施設くるめウス 川嶋 睦己さん>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

雨のシーズンになる6月は、『筑後川と防災』をテーマにお送りしていきます。

ゲストはこの方です！

ゲスト：川嶋さん(以下「川嶋」)

こんにちは！

「筑後川防災施設くるめウス」の川嶋睦己です。よろしくお願いします。

坂本 1回目の本日は、川嶋さんがいらっしゃる施設『くるめウス』をテーマにお話を伺います。

去年7月にも川嶋さんにはご登場いただいて、

その時には『筑後川の生き物』についてお話をさせていただきました。

その時にクルメウス、正確にはニッポンバラタナゴクルメウスという名前なんですけど、

その魚を紹介してもらいました。

そのクルメウスという魚と同じ名前が施設に付いているということですよ。

その「くるめウス」は、どんな施設なんでしょうか？

川嶋 「筑後川防災施設くるめウス」は、百年公園の裏手を流れる高良川を渡ったところに建つ

白い建物なんですけど、施設の北側には筑後川が雄大に流れています。

施設の中に入ると、筑後川水系の水辺の生き物を展示する小さな水族館のようなコーナーや、

筑後川に関するパネル展示等をしておりまして、幅広い年代の方にご愛顧いただいています。

もともとは昭和28年6月に久留米を襲った大水害の記録を伝えて、

洪水から身を守る「治水」の大切さや、防災・減災、河川環境の保全、

そして、河川愛護意識の啓発を目的に2003年に建てられた施設です。

坂本 なるほど。なかなか情報量が多くて、筑後川の博物館のような感じなんですけど、

お子さん連れも多くて、筑後川の生き物も展示されているので人気のスポットですよ。

私も子供が小学生くらいの頃に、よく連れて行った記憶があります。

夏休みの宿題の資料集めとかさせてもらったりしました。

色々なイベントとか教室もやってましたよね。

建物の周りも、河川敷がジョギングやサイクリングコースになっているので、

とっても気持ちがいい場所ですよ。

まさに、川と共に生きてきた久留米市ならではの施設になっています。

ちなみに、昭和28年の大水害の資料はどんなものがありますか？

川嶋 一番の目玉は、災害当時の写真を展示しています。

様々な方々にご協力をいただきまして、集めることができたのですが、

当時の様子を知ることができる貴重な財産なんです。

写真には、昭和28年の大水害を体験された方々の解説が書かれた付箋を貼っております。

例えば、「目の前を牛や馬が流されていきました」ですとか、

「学校のグラウンドに飛行機から物資が投下されました」など臨場感あふれるコメントで

写真の説明を補完しています。

坂本 当時を経験された方ならではのリアルさが伝わってきますよね。

今となっては、昭和28年の水害を知っている世代の方が少なくなってきたので、

いかに教訓を後世に伝えていくかがとても大事ですよ。

一方で、万が一の時には防災の拠点としても使われるということですよ？

川嶋 そうなんです。平常時は防災意識の啓発が主な役割なんですけど、

洪水から町を守る水防活動の拠点として、資材を格納したり人材を待機させる場所、

そして、久留米市指定の避難所としての機能を持っています。

また、大雨の時などには館内展示やSNSでの発信等を通じて、

災害情報の発信・受信を行っています。

それから、施設の外になりますが、北側の筑後川河川敷に設けられた船着場は、

大規模地震などで道路の使用が難しくなって物流が滞った際に、

船を使って物資を運ぶための積み下ろし場所として機能するようにも整備されています。

坂本 へえ～、船を使うまでの災害は、起きてほしくないですけどね。

そういう災害が起きた時には、防災施設としての本領を発揮するということですね。

あまり活躍する機会があってもほしくないのが本音ですが、

いざという時にくるめウスが防災センターや避難所の機能があると知っておくと、

とても安心だと思います。

また、筑後川の河川敷と川の保全にあたっている方々にも利用されているそうですね？

川嶋 ふるさとの河川を自分たちで守っていこうという思いで活動している市民団体の方々に、

イベントや研修会、会議などの開催場所としてご利用いただいています。

例えば、毎月第2土曜日には、複数の市民団体や企業さんが、合同で河川のゴミ拾いを行ったり、

春から秋口にかけては、河川愛護意識の啓発を目的とした自然観察会や川遊びなどのイベントが

開かれていますよ。

坂本 みなさん、ご活躍されているんですね！  
災害時の防災施設としての役割と、平常時に色々な活動で使用されている「くるめウス」は、平常時でも災害時でも利用されているということがよくわかりました。  
そして、川嶋さんご本人も、防災の啓発活動をされているとお聞きしていますが、どんなことをされているんですか？

川嶋 実は福々亭金太郎（ふくふくていきんたろう）という名前で、市民のみなさんに防災落語の出張をしています。  
大学時代に落語研究会にいたことがきっかけで落語をさせていただいているのですが、もっと防災を身近に感じて欲しいという思いで、防災をテーマにした創作落語の口演活動を行っています。  
主に、各地の公民館やPTA主催の講演会などで出演させていただいています。

坂本 面白そうですね。さわりだけでもお聞かせいただけますか？

川嶋 いいんですか!?

坂本 はい、ちょっとだけお願いします。

川嶋 A)防風林を植えようと思うんだけど、どういう木を植えたらいいかな？  
B)防風林ってなんですか？  
A)木を植えて風の害から住宅や畑なんかを守る森のことだよ。  
B)だったらミカンを植えましょう。  
A)なんでだよ。ミカンというのは背丈もそんなに高くならないし、幹も細い。  
もっとしっかりとした木の方がいいんじゃないのか？  
B)いえいえ、昔から言いますよ。冬のミカンは、風邪を防いでくれます。  
こんな感じです。

坂本 お後がよろしいようで（笑）。楽しいですね。また、ぜひたっぷり聞きたいと思います。  
防災と聞くと固いイメージがありますが、こういった面白い落語を交えてお話いただくと、わかりやすいですね。

川嶋さん、くるめウスのお話をありがとうございました。  
筑後川防災施設くるめウスは、毎週月曜日が休館日です。  
利用時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時まで、入館料は無料です。  
現在、緊急事態宣言のさなかにございますので休館中です。  
宣言が明けたら、ぜひお立ち寄りください。  
次回は『筑後川の水害の歴史』というテーマでお送りします。